

新潟市まちなか再生本部会議

報 告 書

(抜粋)

平成24年3月14日

新潟市まちなか再生本部会議

目 次

| | | |
|-----|---------------------------------|-----|
| 第1章 | 新潟市まちなか再生本部の設置について | P5 |
| 1. | これまでの新潟市まちなか再生本部の経過 | P6 |
| 2. | 23年度の設置の目的と概要 | P7 |
| 3. | 23年度の新潟市まちなか再生本部組織 | P8 |
| 4. | 検討対象範囲 | P10 |
| 5. | 各専門部会の検討項目 | P11 |
| 6. | 23年度の本部会議及び部会の開催状況 | P12 |
| 第2章 | まちなか再生への基本方針 | P18 |
| 1. | はじめに | P19 |
| 2. | 都心軸の位置づけ、必要性 | P19 |
| 3. | 都心軸のまちづくりの方向性、コンセプト | P26 |
| 4. | 中長期的な課題への提案 | P28 |
| 第3章 | まちなか再生に向けた取組み提案 | P33 |
| 1. | 新潟ブランドイメージの構築・戦略展開 | P34 |
| 2. | 個性的で賑わいのある商業・都心空間 | P36 |
| 3. | 都心軸を結ぶ分かりやすく利用しやすい「まちなか公共交通」の構築 | P40 |
| 4. | 湊町文化・温故知新・行ってみたいまち新潟 | P45 |
| 5. | 新潟市の玄関口にふさわしい風格と機能を兼ね備えた街並みの創出 | P49 |
| 6. | 訪れる人・住む人に安心・安全なまちなか整備とまちなか居住推進 | P51 |

第4章 まちなか再生の実現に向けてすべきこと（行動提案） P55

1. まちなか再生への取り組みと新潟の魅力を積極発信・・・・・・・・ P56
2. 地区全体の魅力を高める商店街づくり・・・・・・・・ P56
3. 大和デパート跡地再開発の早期実現・・・・・・・・ P57
4. BRTの早期整備と市民・事業者・商業者の機運醸成・・・・・・・・ P57
5. BRTの効果を全市民が感じられる取り組みを・・・・・・・・ P58
6. 花街の文化を継承し活用する取り組みに総力を結集・・・・・・・・ P58
7. 萬代橋というかけがえのない財産を活かす・・・・・・・・ P59
8. やすらぎ堤をイベントや賑わい空間に大解放・・・・・・・・ P59
9. 万代広場と東大通から拠点性と魅力を発信！・・・・・・・・ P59
10. 関係者によるエリアマネジメントの積極推進・・・・・・・・ P60

第5章 新潟市まちなか再生本部報告書 資料編 P61

1. まちなか再生若手ワーキンググループによる提言・・・・・・・・ P62
2. 市民ワークショップにおける市民意見・・・・・・・・ P65
3. 市民提案書で寄せられた意見・・・・・・・・ P84
4. 中心市街地に関するデータ集・・・・・・・・ P88
5. 緊急・短期対策の進捗状況・・・・・・・・ P96
6. まちの活性化・都市デザイン競技 概要・・・・・・・・ P104

まちなか再生にむけて

～活力ある交流都市“新潟”～

「新潟市まちなか再生本部」は大和新潟店の撤退発表を受けて平成 21 年 11 月に設置し、委員はもとより、日本を代表する各分野のアドバイザー、そして多くの市民の皆様から、まちなかのあるべき方向について幅広くご議論をいただきました。

再生本部を設けた当初は、古町・榎谷小路を中心とする中心市街地で有名店や老舗の閉店が相次ぎ、大変に苦しい状況、暗い雰囲気の中で商店街に対する厳しい意見も相次ぎました。

しかし、危機感を共有する中で、次第に新しい動きやこれまでにない考え方も出てきました。郊外型大型店の進出で大苦戦している商店街が多い中、全国では善戦している中心市街地もあります。それらの事例を分析し、世界的な建築家・隈健吾氏ら専門家に話を聞くうちに大きな方向が浮かび上がってきました。それは、「賑わいを甦らせることは商業の新たな核をつくるだけではできない」「地域の歴史や自然・地形、文化を大切にすまちなかづくりが重要で、中でも萬代橋を都心軸の要にすべき」ということだったと思います。

この流れを受け継ぎながら昨年 3 月に再開した会議では、中長期的な課題をテーマに「新潟の都心軸の目指すべき姿」を明確にし、6 つの取り組み提案と 10 項目の行動提案から成るまちなか再生へ確かな指針をいただけたと感謝しています。

従来の新潟型まちなかづくりではあまり重視されてこなかった視点が、多くの関係者・市民・地域のコンセンサスになっていったことは大きな収穫でした。私も「新潟のまちなかづくりの考えが深まり、さらに進化していける」という手応えのようなものを感じています。

もとよりまちなかの活性化は商店街の努力が必要です。加えて関係者がそれぞれの役割を果たし、まちなかが市民に誇りと愛着を感じさせる個性と魅力ある空間に変わっていけば、様々な交流活動を通じて新たな投資を呼び込み将来の担い手を育てる大きな活力となります。

幸い本市には(1)連節バスを専用走行路に運行させる B R T の導入(2)それを契機に市全域のバス交通網を持続可能にする路線大幅見直し(3)新潟駅万代口の整備前倒し—など、新潟のまちが魅力的に変わるプロジェクトがスタンバイしています。

新潟駅から広がる美しい街並みを B R T が走りぬけ、その先の古町には奥深い歴史や文化に支えられた活気ある街の営みと若い人々の笑い声があふれる・・・ そんな夢が広がる未来に向けて、市民の皆さまのご意見を聞きながら、まちなかづくりに全力で取り組んでいきます。

最後に、まちなか再生本部の活動にあたり、会議にご参加いただき、貴重なご意見をいただいた委員および関係者の皆様、またご意見をお寄せくださった多くの市民の皆様に、心から感謝申し上げます。

平成 2 4 年 3 月

新潟市まちなか再生本部 本部長 篠田 昭

まちなか再生 ～ 都心軸・自然軸・時間軸の再形成から ～

東日本大震災の発生直後に、この「まちなか再生本部」は始動しました。自然の大きな力を実感した私たちの前に、まちなか再生という都市のかかえる課題が突きつけられているのだと認識しました。明治時代以降の日本の近代都市は、できるだけ地域の自然や歴史から遊離して、経済活動が効率的に行いやすいように均質化され、個性と誇りを失ってきました。そして、50年、100年先の姿を描けないまま今に至っているように思います。今後の都市のあり方として、地域の自然と歴史を大切にして、その伝統の上に新たな展開が期待される時代になったと考えます。

さて本会議では、新潟駅から古町に至る都心軸に、長い歴史という新潟にとって一番の時間とアイデンティティが蓄積されている重要性が再認識されました。そして、新潟のまちなかに信濃川という日本一の大河が流れており、いわば都心軸に信濃川という自然軸が直交しているのです。さらにそこには、80歳を超えた時間軸をもつ萬代橋が存在しています。言い換えると、都心軸・自然軸・時間軸という三つの骨格が新潟のまちなかに形成されているのです。その骨格を100年先の未来まで見越して、景観や賑わいによりどう磨きあげることが議論の主題になりました。さらには、都心軸を白山駅まで延伸し、新たな交通システムによる分かりやすく利用しやすい公共交通整備を提案しました。

加えて、新潟の都市ブランドとしての湊町文化と花街（かがい）を活かしたまちあるき観光、新潟駅からの風格ある街並み・景観、安全安心なまちなか居住の必要性まで具体の提案が広がっています。それら提案のいくつかは、成熟した社会における「生活の質」の向上と「文化の質」の個性化を同時に求める取り組みであり、そもそもの湊町と在郷の町や村、集落などが支えてきたかつての大きな経済圏を取戻す試みであるとも考えています。

これまで、まちなか再生本部会議委員およびオブザーバー・関係者の皆様には、真摯なご議論・ご意見をいただき感謝しております。まちなか再生本部会議は、今回でその役目を終えることとなりますが、これからは委員および関係者各々が一市民・事業者の立場として、本格的な「まちなか再生」の取り組みに参加・参画していただくこととなります。

このまちなか再生の取り組みが、100年先の未来を創る旗振り役として、新潟市全体を先導することを期待してやみません。

平成24年3月
新潟市まちなか再生本部会議 座長 大熊 孝

第2章 まちなか再生への基本方針

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P19
2. 都心軸の位置づけ、必要性・・・・・・・・ P19
3. 都心軸のまちづくりの方向性、コンセプト・・・・・・・・ P26
4. 中長期的な課題への提案・・・・・・・・ P28

1. はじめに

新潟駅から古町地区に連なる中心市街地は、本市の“まちなか”の中でも中核的な業務・商業機能が集積する「都市の顔」に例えられる地域です。本来、まちなかは、そこにある様々な魅力や交流の中から新しい情報や文化が創造・発信されることで、さらに多くの人々やものが集まる好循環の持続が必要です。しかし、近年、いわゆる中心市街地の活力低下により、訪れる人や働く人が減り、さらに活気が失われる悪循環の連鎖が懸念されています。このような悪循環が「都市の顔」である中心市街地で発生すれば、本市の産業・経済、さらには住民生活にも影響が及ぶ大きな問題となります。

本資料では、新潟市にとって最も主要な“まちなか”である都心軸を対象に、将来のあるべき姿や求められる機能、中長期的な課題への取り組みを提案します。

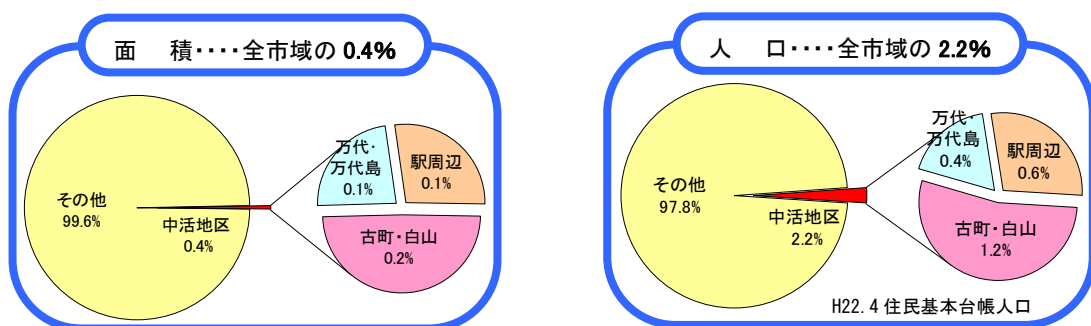
2. 都心軸の位置づけ、必要性

多くの都市インフラや機能が集積する都心軸は、新潟市の社会経済活動を国内外に結びつけ、来訪する人々に新潟のイメージを発信する「都市の顔」として、本市の発展に重要な役割を担ってきました。一方、これからの都市が活力を失うことなく持続的に発展しつづけるためには、新たな創造力を生み育て、外部から投資を呼び込む魅力と強い競争力が求められています。その中でも都心軸は、多様な交流を通じて地域独自の文化や産業を広く発信し、市域全体の活力をリードする“新たな成長エンジン”となるべく、明確な戦略のもとに関係者が総力を結集して、まちづくりに取り組む必要があります。

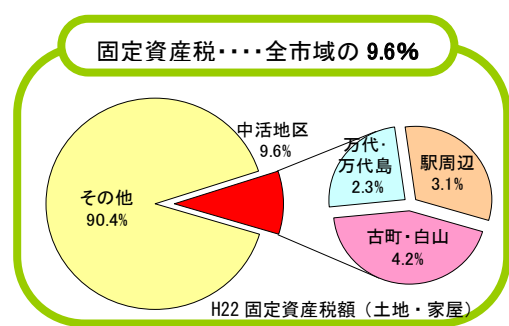
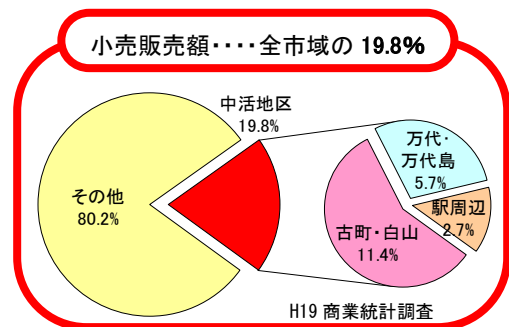
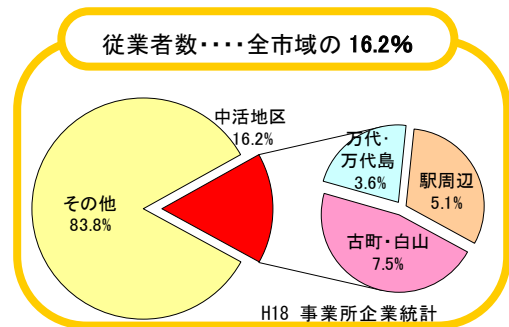
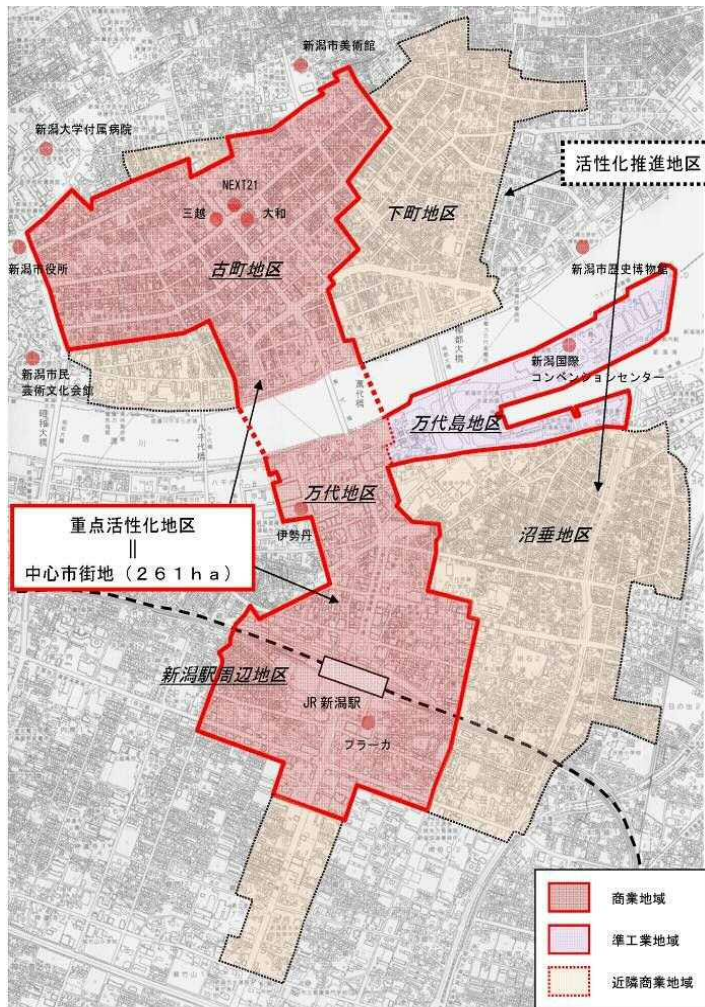
(1) 都心軸の役割

① 商業・業務機能が集積する都市の発展基盤

全市域に占める中心市街地の面積・人口の比率は、わずか0.4%・2.2%しかありませんが、従業者数、小売販売額では、近年その比率は低下傾向にあるものの、依然として2割に迫る高い値を示しています。中でも本市の情報通信業や金融・保険業の従業者数の約半数が中心市街地で働いており、社会経済活動や都市の発展過程において、中心市街地が重要な役割を担っていることがわかります。



■ 中心市街地のシェア



主な産業別事業所・従業員数の全市シェア

- 情報通信業 事業所数：全市の 37% 従業員数：全市の 46%
- 金融・保険業 事業所数：全市の 35% 従業員数：全市の 63%
- 飲食店、宿泊業 事業所数：全市の 37% 従業員数：全市の 38%

② 時間軸の蓄積（湊町・近代にいがた発展の歴史が凝縮）された空間

新潟市は、信濃川・阿賀野川の河口に開かれた川湊とともに育ち、古くから日本中の物や情報が集まる北前船の最大の寄港地として発展してきました。中でも江戸時代の街建てが残る古町地区には、料亭や旧豪商の邸宅などが集積し、当時の花街文化、湊町文化の面影を色濃く残しています。また、萬代橋によって往時の新潟町と結ばれた新潟駅周辺や万代地区は、時代の変遷とともに、湿田から多くのビルが立ち並ぶ都会的な街並みに姿・形を変えてきました。

■ 都心軸周辺の歴史的資産

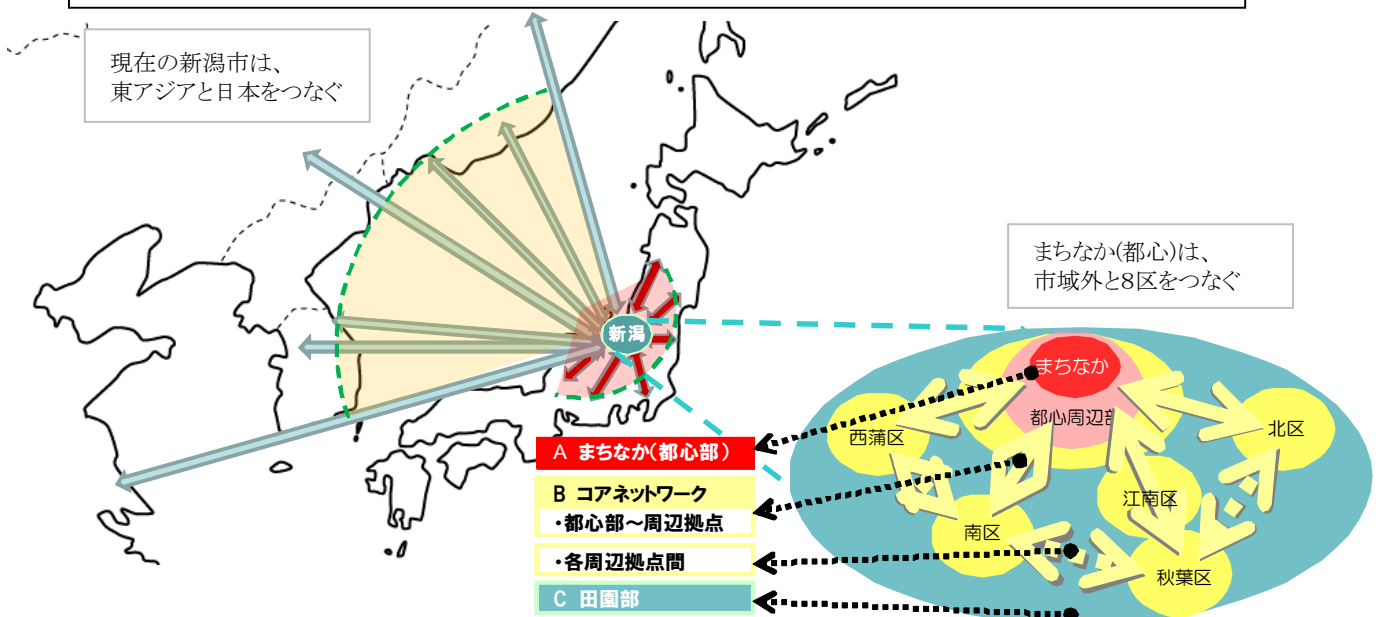


③ 新潟市と国内外、また田園文化と都市文化を結ぶ“扇の要”

新潟市は、豊かな水辺空間、里山や田園などの自然環境と高速交通網や高次都市機能が調和・共存する田園型政令指定都市を目指しており、都心軸はその両者が交差し、新潟市と国内外とを結びつける重要な役割を担っています。

新潟のまちなか(都心軸)は域外と域内の『扇の要』

… かつて、近郷近在から「ヒト・モノ・コト・経済・情報(知恵)」が舟運、街道を介して新潟湊に集積した。さらに産物は、海路・陸路で域外に流通されて外貨外資を新潟港にもたらし、遠方よりの来訪者を受け入れてきた。一方、もたらされた外貨外資は、舟運・街道を通じて上流の近郷近在を潤し、湊町と田園とが共存共栄してきた。



(2) 都心軸におけるまちづくりの理念

田園文化都市における拠点型のまちなか創出

新潟市の郊外には先人たちが築いてきた水と土の暮らし文化が息づき、全国でも類をみない美田と日本の原風景が広がっています。その中で中心市街地は広大な越後平野の各地域と結びつき、人やものの交流拠点として機能を集積してきました。これら先人の努力を引き継ぎ、市域全体の成長をリードすべく、新潟市が持つ個性を活かしながら商業・業務・文化・行政といった都市機能の集積・再生を図り、人々を引き付ける魅力と活力ある拠点型のまちなかを創出します。

環境に配慮した持続可能な都市の実現

地球環境に対する関心が高まる中、限られた資源を大切に使い、安定的な社会経済活動のもと人々が健康で安全に、かつ快適に生活することのできる省資源・省エネルギー型の社会経済システムへの移行が求められています。そのためには、多くの人々が集まる都心軸にわかりやすく利用しやすい公共交通軸を導入し、市内各方面とつながる交通拠点施設としっかり結びつける必要があります。これにより、自動車に過度に依存することなく、中心市街地が持つ高度なサービス機能を広く市内全域で享受できる人に優しく持続可能なまちづくりの実現を目指します。

新潟の魅力を広く発信・演出する都市デザイン

新潟には、低湿地帯を美田に変えた先人たちの水と土の歴史や豊かな自然、伝統芸能、湊に育まれた料亭・芸妓文化が息づいています。これら掛け替えのない新潟の歴史的な資産を中心市街地が持つ情報発信機能やにぎわい空間を活用しながら、交流を通じて国内外に広く紹介し、地域と行政が一緒になって新潟ブランドという形まで高めていきます。

連携・協働によるまちづくり

よく街の個性は文化の薫に例えられます。先人のたゆまぬ努力の賜物である「街」は、人々の暮らしとともに成長・発展し、多くの人々に恩恵をもたらしてきました。この街という文化資産に新たな創造的価値を生み出し、次の世代に伝えることは街に関わる全ての人々の役目といえます。新潟を訪れる人、住む人に夢を与え、子ども達の未来に希望を与えるため、今、関係者がそれぞれの得意分野を活かし、連携・協働してまちづくりに取り組む必要があります。

(3) 都心軸の目指すべき姿

・・・萬代橋により結ばれる2極循環構造

人口減少・超高齢社会に入り、まちづくりも市街地の拡大に象徴される都市化社会から、環境への配慮や地域独自の「創造性と想像力」を重視する持続可能な社会づくりにシフトしています。

こうした中、本市の顔であり中核的な都市機能が集積する都心軸では、これまでのまちなかに期待される集客力に加え、日本海側の拠点都市にふさわしい風格や地域の独自性を明確に意識し、自覚的に洗練・活用していく取り組みが重要な「鍵」となります。

このような考えのもと、都心軸においては、単なる一地域の活性化でなく、以下に示す3つの方針により、住む人、訪れる人、ビジネスマンにとって魅力があり、多くの「交流」を通じ創造的な活動が継続して生まれるまちなかを目指し、中長期的対策に取り組めます。

【方針1】 萬代橋の両岸地区にしっかりとした賑わいを創り出す

信濃川を挟んだ両岸（両端）地区において、関係者の連携のもと、都心軸の両端を担うにふさわしい拠点性を創出します。

新潟駅周辺・東大通り地区、万代地区

・・・国内外を結ぶゲートウェイ

- 高いデザイン性と空の開放感を活かした駅前広場及び東大通の景観形成を図ることにより、訪れる人々に日本海側の拠点都市にふさわしい風格と機能を印象付ける街並みを創り出します。
- 県都の広域交流拠点地域として、国内外から訪れる人々が新潟の文化や歴史を知り、新しい新潟の創造性に触れる情報発信を積極的に行い、“行ってみたいまち新潟”の実現を目指します。
- 連続立体交差化に伴う駅南方面との連携をにらみ、駅周辺と万代地区を一体的に結び、回遊性が高く歩いて楽しい快適な歩行環境をつないで、新たな賑わいと活力の創出につなげます。
- やすらぎ堤に結ばれる歩行者空間や低未利用地のイベント・賑わい活用について、関係者によるまちづくりを促進することにより、新たなまちの魅力や地域の価値を高めることが期待されます。
- 将来、新たな交通システムが駅南方面へ延伸され、都心軸各地区と鳥屋野潟や環境と調和した文化・スポーツ交流施設との連携強化が図られることにより、互いの特徴を活かした賑わいの相乗効果が期待されます。

古町・桎谷小路地区

・・・歴史に裏付けられた湊町文化

- 都心軸である桎谷小路と通りによって結ばれる本町や上古町、花街といった新潟らしい個性を持った各地域の情報発信機能を強化し、観光的魅力を兼ね備えた回遊性のあるまちなかの創出を目指します。
- 湊町の歴史に育まれた花街や堀の歴史・文化を未来に引き継ぎ、貴重な建築物や江戸時代から続く街並みや路地を活かしたまちづくりを関係者の連携・協働により推進します。
- 個店や商店街の魅力を最大限に活かしながら、知識や企業・人材・資金をつなぎ合わせ、得られた成果をまちの賑わいや投資に反映できる地域主体の組織づくりが求められています。
- アートやマンガといった様々な創出活動を育成する環境づくりを進め、未来につながる新しいまちの活力を生み出します。

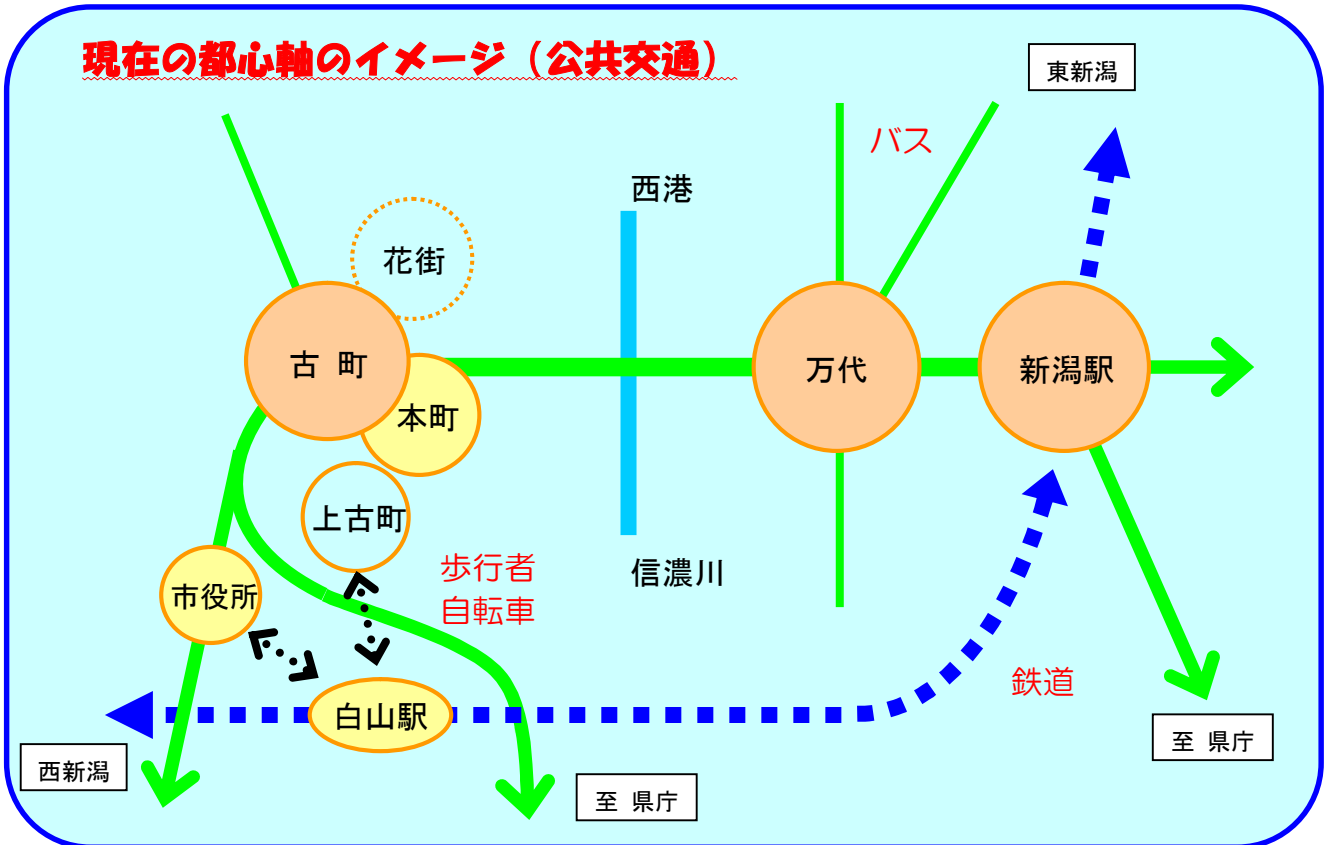
【方針2】二つの地区を萬代橋でしっかりと結びつける

- わかりやすく利用しやすい新たな交通システムを都心軸に導入し、市域全体の結びつきを強めることによって、まちなかが持つ魅力や高次な都市機能を広く享受できる暮らしやすさを実現します。
- 萬代橋を中心とする都心軸に、信濃川や港といった新潟の独自性や魅力を全国に発信できる都市イメージを育て上げ、ブランド力まで高めていきます。
- 信濃川に表を向けた都市デザイン、新たな河川の利用価値の創出、萬代橋周辺を背後地と一体的に結びつける環境づくりによって、競争でなく共生という都心軸の新たな発展の可能性が向上します。

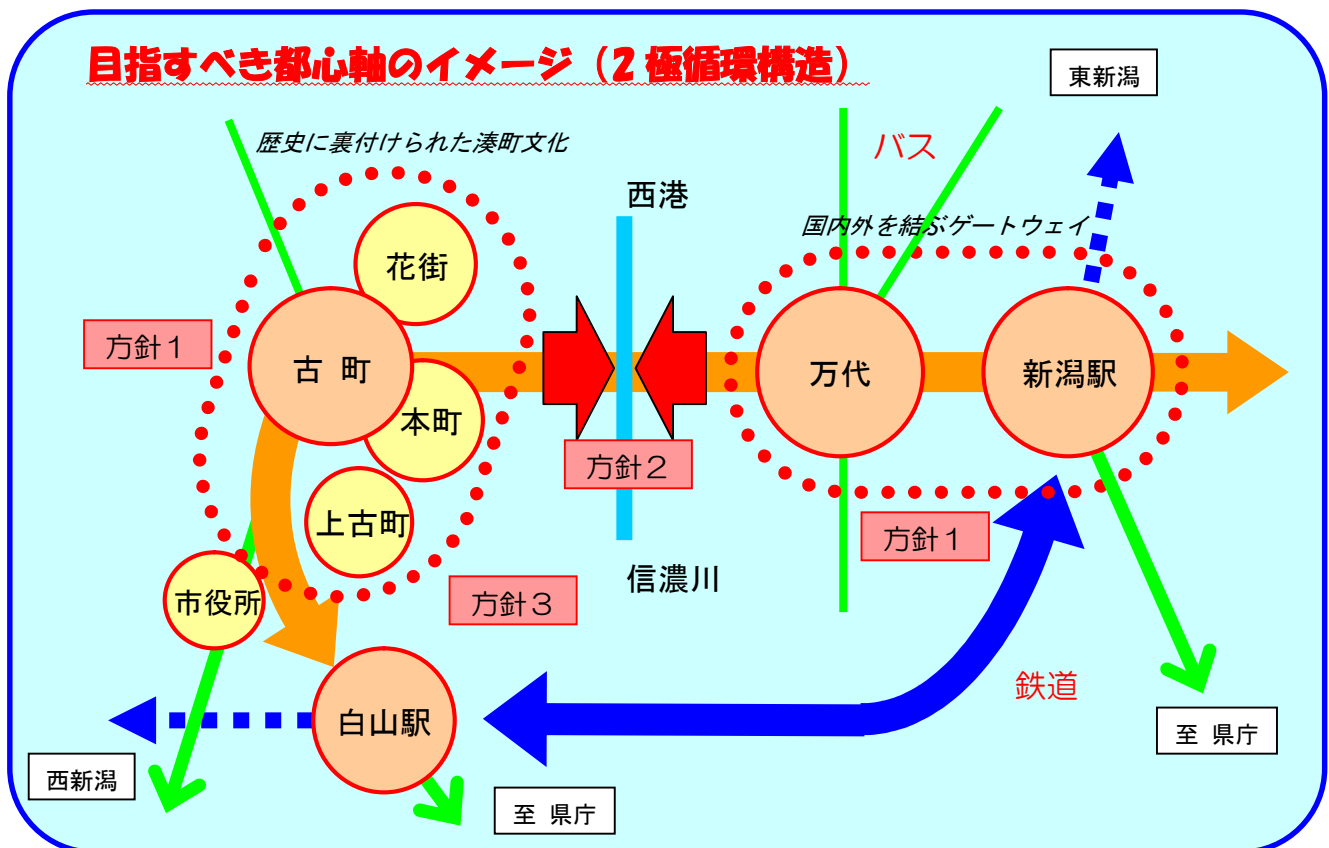
【方針3】都心軸に人や物の循環を生み出す流れを創る

- 新潟駅～古町～白山駅間に鉄道と連動した公共交通アクセスを提供し、白山駅を古町に直結する拠点駅に機能強化することによって、都心軸のまちづくりへの大きな波及効果が期待されます。
- 都心軸と市内各地を結ぶ既存バス路線の再編や、乗換え抵抗の無いきめ細かな利用サービスを確保することにより、都心軸周辺だけでなく、まちなかの恩恵を広く市民が享受できる都市構造を確立します。
- 都心軸周辺において、関係者との連携によりレンタサイクルやP&Rなど基幹公共交通軸と連動した取り組みを促進し、環境や交通弱者にやさしいまちなかの移動環境を構築します。

現在の都心軸のイメージ（公共交通）



目指すべき都心軸のイメージ（2極循環構造）



3. 都心軸のまちづくりの方向性、コンセプト

新潟市のまちなかの全体的なイメージ
 みなとまち（開港5港、旧税関庁舎、信濃川、日本海）
 新潟市を象徴するもの・風景（萬代橋、信濃川、日本海、夕日、県政記念館、みなとぴあ、砂丘、松林、小路、寺町）
 新潟の街のメインストリート（都心軸）・・・新潟駅～東大通り～万代～萬代橋～榎谷小路～古町

新潟都心軸の将来像
 湊町の歴史と文化が薫り、政令指定市としての風格と機能、賑わいを感じられる拠点地区

各地区の特性を踏まえた「まちなか機能の充実」

新潟駅周辺・東大通り

玄関口・出発地としての機能強化

新潟駅連続立体交差により景観・機能が大きく変化する。新潟の玄関口として風格ある景観の形成、情報発信機能の強化を図り、オフィス街としての魅力を向上させる。さらに新交通システムとの接続や港湾や空港とのアクセス向上により、国内外に繋がる新潟の拠点性を戦略的に発信する。

主な課題

新潟駅の連立、新たな交通に合わせた機能、景観づくり

万代

最新流行と情報・賑わい拠点のまち

全国展開のブランドなど大規模な商業施設が集積する街であり、公共交通ターミナルの機能を併せ持つ。新潟駅からの連続性、新たな業務ビル、信濃川や万代島地区に隣接する特性を活用し、地区内外との回遊性を高めることにより、まちなかに広がりを持った賑わいを創出する。

主な課題

主要建築物の更新期、駅との歩行アクセス、新たな交通への対応

萬代橋周辺

新潟のシンボル・賑わい空間

新潟市の時間軸が蓄積した歴史・景観のシンボル。万代橋からの眺望を活かし、多くの市民や来訪者が憩い・集う仕組みづくりと景観の保全を推進する。さらに古町・万代地区とやすらぎ堤を結ぶ歩行者動線を強化し、信濃川を中心とした都心軸の一体感を醸成する。

主な課題

やすらぎ堤、万代島とのアクセス、景観資源活用

古町・榎谷小路

新潟独自の歴史と文化創造のまち

湊町からつづく商業・飲食の中心地であり、江戸時代から続く町建てや花柳界、歴史的な建造物といった食文化が色濃く残る。また日本海や多くの公共文化施設が立地する砂丘地にも近く、これら条件を活用した観光振興、賑わい創出とともに、新しい創造力を育成する基盤づくりを進める。

主な課題

商業集積及び機能集積の低下、拠点性の低下

誰もが使いやすく、分かりやすい「まちなか公共交通」

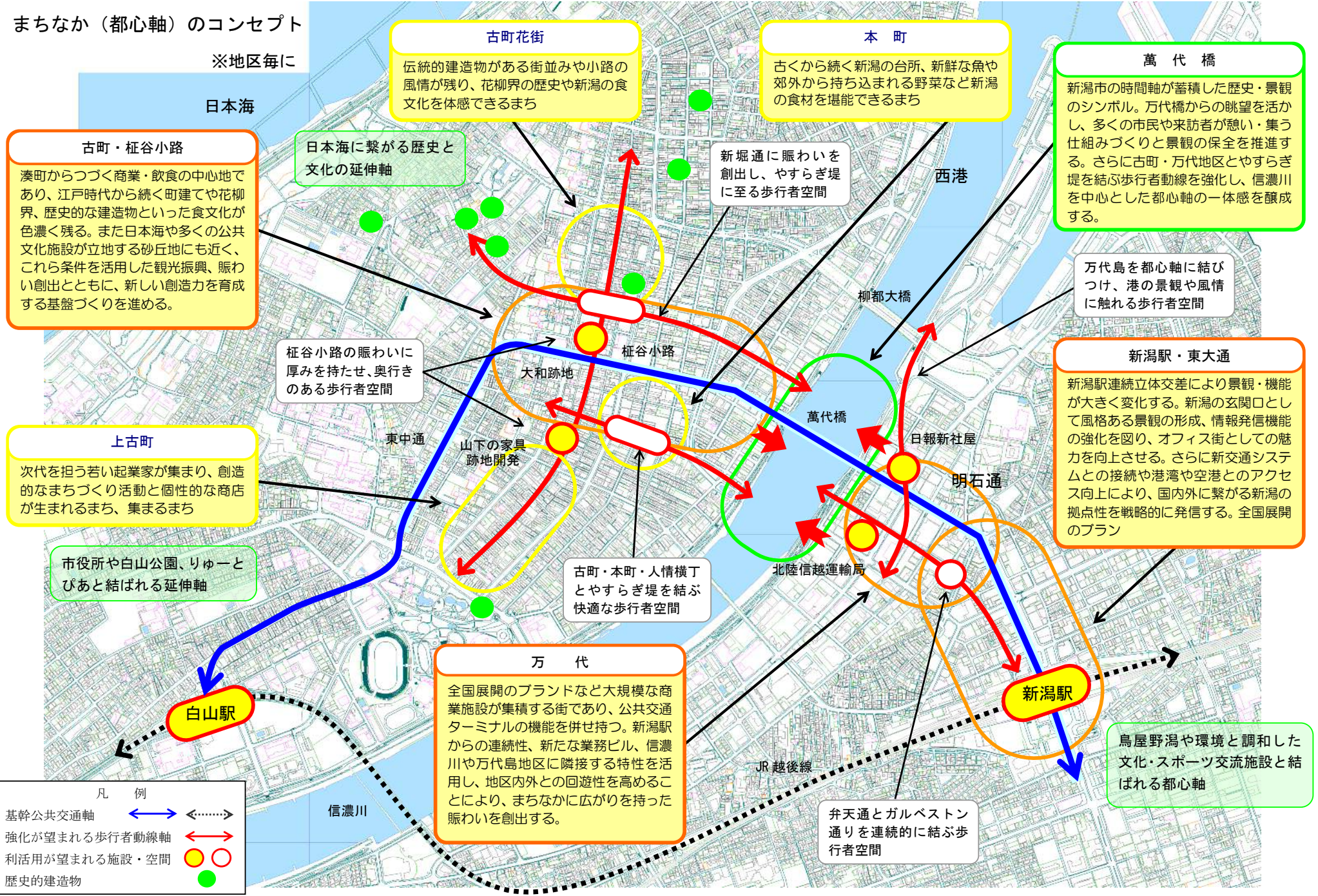
～JR新潟駅と白山駅を結び循環する公共交通軸～

歩いて楽しい、行きたくなる「まちなか空間デザイン」

～萬代橋を中心とした魅力的な都心軸の空間デザインの構築～

まちなか（都心軸）のコンセプト

※地区毎に



古町花街
伝統的建造物がある街並みや小路の風情が残り、花柳界の歴史や新潟の食文化を体感できるまち

本町
古くから続く新潟の台所、新鮮な魚や郊外から持ち込まれる野菜など新潟の食材を堪能できるまち

萬代橋
新潟市の時間軸が蓄積した歴史・景観のシンボル。万代橋からの眺望を活かし、多くの市民や来訪者が憩い・集う仕組みづくりと景観の保全を推進する。さらに古町・万代地区とやすらぎ堤を結ぶ歩行者動線を強化し、信濃川を中心とした都心軸の一体感を醸成する。

古町・榎谷小路
湊町からつづく商業・飲食の中心地であり、江戸時代から続く町建てや花柳界、歴史的な建造物といった食文化が色濃く残る。また日本海や多くの公共文化施設が立地する砂丘地にも近く、これら条件を活用した観光振興、賑わい創出とともに、新しい創造力を育成する基盤づくりを進める。

日本海に繋がる歴史と文化の延伸軸

新堀通に賑わいを創出し、やすらぎ堤に至る歩行者空間

万代島を都心軸に結びつけ、港の景観や風情に触れる歩行者空間

榎谷小路の賑わいに厚みを持たせ、奥行きのある歩行者空間

新潟駅・東大通
新潟駅連続立体交差により景観・機能が大きく変化する。新潟の玄関口として風格ある景観の形成、情報発信機能の強化を図り、オフィス街としての魅力を向上させる。さらに新交通システムとの接続や港湾や空港とのアクセス向上により、国内外に繋がる新潟の拠点性を戦略的に発信する。全国展開のプラン

上古町
次代を担う若い起業家が集まり、創造的なまちづくり活動と個性的な商店が生まれるまち、集まるまち

市役所や白山公園、リ्यूーとびあとと結ばれる延伸軸

古町・本町・人情横丁とやすらぎ堤を結ぶ快適な歩行者空間

万代
全国展開のブランドなど大規模な商業施設が集積する街であり、公共交通ターミナルの機能を併せ持つ。新潟駅からの連続性、新たな業務ビル、信濃川や万代島地区に隣接する特性を活用し、地区内外との回遊性を高めることにより、まちなかに広がりを持った賑わいを創出する。

鳥屋野潟や環境と調和した文化・スポーツ交流施設と結ばれる都心軸

弁天通とガルベストーン通りを連続的に結ぶ歩行者空間

- 凡 例
- 基幹公共交通軸 ←→ ←⋯⋯→
 - 強化が望まれる歩行者動線軸 ←→
 - 利活用が望まれる施設・空間 ● ○
 - 歴史的建造物 ●